

今、社会の中で生きづらさを感じ、悩み、困っている若者は、少なくありません。その中で、不登校・ひきこもりになった場合、本人や家族が十分な支援が受けられず、孤立して長期化するケースが増えており、全国的に課題になっています。どんな支援ができるのか、視察や調査をしました。

# 笠井かなえの一般質問

みなさまのご意見、現場の声をお聞かせください。  
TEL・FAX 0940-37-0700

## ◆不登校、ひきこもりの理解と支援を

不登校やひきこもりとなる原因は、多様であり、複雑なケースも増えていて、一人一人へのきめ細やかな対応が必要です。不登校、ひきこもりの当事者とその家族へ、自立に向けたきっかけと将来への希望が得られるように支援することが重要だと考え質問しました。



### ●不登校の子どもたちに、教育を受ける権利の保障を

宗像市では、不登校の児童生徒の約2割が適応指導教室（エール）に通っています。学習支援や体験学習等を受け、外の世界と関わる中で、学校への復帰や自立の可能性も大きいです。

しかし、適応指導教室に通っていない子どもは、社会との接点が持てず、支援を受けるきっかけが乏しいのが現状です。不登校の子どもたちの誰もが教育を受ける権利を保障される仕組みが必要です。今後検討している支援を尋ねました。

**回答** 学校だけでは対応が困難な事例も多いので、31年度から家庭訪問相談員を派遣して、相談や学習支援を行う中で、学校等とも連携して登校や自立を目指し支援を充実させたい。

外に出られない不登校の子どもたちに対して、家庭訪問をするアウトリーチ型の支援は重要で、他の自治体では成果を上げています。宗像市の今後の取り組みに期待しています。

### ●ひきこもり「8050問題」への対応を

今、社会的関心を集めている「8050問題」があります。ひきこもりが長期化して50代になった子を80代の親が支える家庭が増えており、生活が困窮し、親子共倒れが心配されています。昨年、福津市でも事件が起こり、宗像でも起こりうることで、積極的に地域から情報を集めること、市民の理解を進める啓発が必要です。

**回答** 本市でも直面している課題。民生委員からも情報を得るように努めたい。

### ●ひきこもりへの相談体制の充実と県やNPOと積極的な連携と支援を

ひきこもりのことをどこに相談していいかわからないという声を家族や市民の方から多数聞きました。宗像市のホームページには何も情報がありません。市のホームページに相談窓口などをまとめてわかりやすく掲載するよう要望しました。

**回答** ホームページに掲載する方向で進める。  
\*1月中に掲載できるように準備をしているとのことです

18歳以下のひきこもりは子ども相談支援窓口で対応していますが、19歳以上の場合の専門相談窓口は県になります。市役所に家族から困っていると相談があった場合は、その悩みに寄り添う姿勢で支援のきっかけになるような対応を要望しました。

市内には、若者サポートステーションなど、就労支援のNPOや家族会もあるので、市としてもっと連携して支援に取り組むこと、当事者の居場所づくり等を要望しました。

### ●早期の相談体制の充実を

ひきこもりが始まった年齢は、15歳～24歳に集中し、全体の約65%です。長期化させないためには、早い段階での親身な相談体制の充実が必要です。厚生労働省が勧めている、継続的支援を行う「ひきこもりサポーター派遣事業」に取り組むよう提案しました。



## ◆ひきこもり支援の現場に行ってきました。

### ☆うきは市の「不登校・ひきこもり対策支援」

(運営委員も一緒に視察に行ってきました。)

この8年間で、長期不登校の中学生、20歳前後の若者を中心に100人以上の支援を行い、個人が、次のステップに進んでいます。

#### ●取り組みのきっかけ

社会福祉協議会が市内各地域で開催している福祉小座談会で、住民から「不登校の子が多い」「ひきこもりの人がいるけど、どうしたらいいか」という話が出ました。そこで、市内全域で調査をし、小中学校にて完全不登校の子や、ひきこもりの若者が多数いる状況を確認。市と協議し市の事業として、社協が委託を受け始めました。

#### ●主な支援内容は7つの支援の『輪』

- ・訪問支援（アウトリーチ）
- ・来所・電話・メール・チャット相談
- ・フリースペース運営
- ・当事者の会（Switch）
- ・家族会（みつばちの会）の育成
- ・市民向けの講座の開催
- ・就労支援
- ・内職シェアステーションの運営

本人の希望する活動に合わせた支援をすすめ、自立に向けた活動につなげています。



内職シェアステーションで、計量・袋詰めを行い販売されているラーメン



うきは市の地域福祉活動専門員権藤さんと市民ネットのメンバー

### ☆NPO 法人 丘の上の街（宗像市田久）

障がい者の就労支援事業とひきこもりや社会の中で生きづらさを感じている人のための、居場所や社会参加のきっかけとしてのフリースペースの提供を行っています。「どうすれば少しでも幸せと感じる生き方が出来るのか様々な視点から一緒に考えていきたい」と話されていました。



### ☆福岡若者サポートステーション

「学校を卒業・中退後、あるいは仕事を辞めた後、働くことや自立についての悩みや不安から、社会への第一歩を踏み出せない若者とその家族を対象」とした支援機関です。厚生労働省から委託されたNPOが運営し、相談窓口が宗像市役所（サテライト宗像）でも毎月3回開設され、年間100件以上の相談を受けています。

●不登校とは、  
年間30日以上学校を欠席した、児童生徒のこと（文科省の統計調査の定義）

●ひきこもりとは、  
学校や仕事を持たず、家族以外と関わらずに、社会的に孤立している人で、6ヶ月以上が目安。全国で約54万人（15歳～39歳、2016年調査）と推定されている。

## 12月議会報告

補正予算：市立学校空調設備整備事業費を9億2,624万1千円計上。

近年の猛暑による熱中症を防ぎ、良い学習環境を保证するために、市内小中学校に一括でエアコンを設置する。今年度中に契約し、取り付け工事は平成31年度に実施する。



以下の要望をしました。

- ・全国でエアコンの設置が予定されてる。機材の調達や人材確保に努めること。
- ・設置工事のため、夏休みが前倒しされ長くなるので、授業日数の確保をすること。

不登校やひきこもりに対して、私たちは特別な人になるものだと思います。しかし、不登校・ひきこもりは、誰でもなる可能性があると言われています。他人ごとではなく“自分ごと”と捉えることが大切だと感じました。

それが、みんなで支え合い、だれもが孤立せず、安心して住み続けられる地域づくりにつながると思います。

